

令和2年度決算をこう評価する

10月13日の本会議において、令和2年度一般会計決算について各会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

今後も予断を許さない財政環境にあることを踏まえた持続可能な行財政運営の徹底を強く要望し、賛成
自 民 党



この度の決算審査では、西川区長の第5期目のスタートにあたり、その成果を確認した。区政全般にわたり区民サービスの向上に向けた着実な前進が図られており、改めて西川区政の取り組みを高く評価する。

まず、財政状況については、最大の自主財源である特別区税は過去最大を更新している。各種財政指標はいずれも適正な水準にあり、健全な財政運営が維持されている。コロナ禍にあっても安定的な財政運営を継続できたのは、我が党がかねてから主張し続けてきた、サンセットをはじめとする行財政改革に熱意をもって取り組んできた結果であると評価する。また、新型コロナウイルス感染症対策について、多くの事業を実施したことにも感謝する。

本決算には、未来社会を担う子どもたちが健やかに育つための取り組みや、「読書のまち あらかわ」の推進による文化環境を整える取り組みなど、区の将来を見据えた施策がしっかりと盛り込まれている。我が党では、主に以下の点について質疑を行った。

福祉・健康の分野については、東京女子医科大学東医療センターの移転と新病院の整備、災害時における医療救護所の運営及び拠点病院との連携、重層的な生活支援体制、自宅療養者への支援の強化等に期待する。

子育て・教育の分野については、ICT教育におけるタブレット端末活用の成果と課題、児童虐待判定へのAI導入、特別支援学級設置校の廊下の段差の抜本的な解消を求める。

産業・観光の分野については、荒川遊園の戦略的な広報や近隣飲食店への周知、今後の製造業等

経営力向上支援補助金の活用を求める。

環境の分野では、プラスチックのリサイクル・分別回収の推進を求める。

都市計画の分野については、JR東北本線荒川橋梁の堤防工事の進捗を確認し対応を求める。

今後も新型コロナウイルス感染症への更なる対応をはじめ、公共施設の更新など多大な財政需要が見込まれており、今後の財政環境は予断を許さない状況にある。それらを踏まえた、計画的で持続可能な行財政運営の徹底を強く要望し、本決算の認定に賛成の討論とする。



読書を愛するまち
あらかわ宣言のロゴ

感染症対策をはじめ、区民の生命と財産を守るための施策に全力で取り組むことを求め、賛成

公 明 党



令和2年度予算は、これまでの実績や社会情勢の変化等を踏まえ、全ての区民が幸福を実感できる施策に取り組むという強い決意に基づき、「区民の安心と元気を育む予算」として編成され、執行されてきたものと理解している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい始め、我が党は区民の声、現場の声を聞き取り、13回にわたる「緊急要望書」を区長に提出した。区は、その要望を盛り込んだ補正予算を5度にわたり編成するなど、素早い対応をしたことを高く評価する。

令和2年度決算を総括すると、一般会計の歳出

総額は前年度比大幅な増となっており、財政健全化法に基づく健全化判断比率において、いずれの指標の数値も良好な水準を維持している。

この度の決算審査では、高齢者の見守り対策としての見守り電球やICTサポートデスク等の設置、生理の貧困問題の対策強化、大切な家族を亡くされた方のグリーフケアについて資格取得などの職員の資質向上、児童虐待防止対策として職員の対応力やスキル向上のためのAI活用の推進、廃プラスチック回収についての各種の取り組みなどの意見・要望等について、前向きな答弁がなされたと理解している。我が党が一貫して主張してきた「感染症対策」「子育て・教育対策」「社会的孤立防止対策」「防災・減災対策」そして「ポストコロナ時代の経済と生活の再生」については、早急な区の決断と実行を強く要望し、本決算の認定に賛成の討論とする。



▲防災アプリの普及と活用

区のコロナ対策が不十分。検査や保健所体制の強化、くらし応援など積極的予算編成を求め、反対

共産党



コロナ感染拡大のもと、住民の暮らしと事業者にとって深刻な事態となった令和2年度決算について、以下の理由から認定に反対する。

まず第一に、この年度最大の課題・コロナ感染症対策の大部分は、国や都の補助金や交付金が財源となっている。我が党提案のコロナ融資金利ゼロや就学援助対象拡大などの予算組み替えも、区の独自財源でできた内容である。来年度予算に向け、財政出動を含めた積極的財政運営を求める。

第二に、区内で発生した新型コロナウイルスの集団

感染も、初動の遅れが感染拡大につながった。第6波が起きる前に、これまでの経過を総括し、大規模なPCR検査を実施すべきである。また、保健所等ケア職場への支援も強化すべきである。

第三に、西日暮里駅前再開発の区のホールは断念したが、巨額の税金投入に変更はない。三河島駅北地区再開発と合わせて1万トンの二酸化炭素排出が想定されるなど、地球温暖化に逆行する大規模再開発は見直しすべきである。

最後に、教室の換気対策としてサーキュレーター、CO₂濃度測定器の設置、新生児特別給付金の支給対象外となった方への独自給付、住まいは人権の立場で、高齢者・障害者への借り上げ住宅・家賃助成制度・障害者グループホームの設置の具体化、コロナ禍で苦しむ区内業者に区独自給付金支給の検討などにおいて、対応の遅れが明らかになった。シルバー人材センターにも影響を及ぼすインボイス制度の廃止と消費税5%への引き下げを国に働きかけることを求め、反対の討論とする。



▲シルバー人材センターで活動される方々

非常時だからこそ、より効率的で柔軟な事業展開を期待し、賛成

立憲・ゆい・無所属の会



令和2年度はコロナ禍初期の時点での予算編成の在り方及び議論の内容を検証することで、今後のより効果的かつ迅速な予算の執行、施策の遂行へとつなげるという意味で、重要な決算年度であった。新型コロナウイルス感染症の影響で、計5回の補正予算の編成を行い、規模も計約300億円にのぼる異例の年になった。

決算に関する特別委員会では、新型コロナウイルス感染

症対応だけでなく、非常時における市内のネット環境の整備、文化振興に係るこれまでの取り組みの検証と、俳句をはじめとした様々な文化・環境資源の活用による街づくり、自転車活用推進計画について、自転車のまち荒川区の宣言及びそれに準ずる主要施策としての位置づけ、スケートパークの整備促進、防災士のさらなる活躍の為の施策の推奨、及び防災アプリのQRコード記載ののぼりの活用、産官学連携促進事業による地域経済の活性化、行政システムの効率化、そして旅館業における厳正な仕組みづくり等の質疑を行った。

予算執行には、非常時だからこそ、区民に寄り添った事業展開を期待し、賛成の討論とする。



募集中の
フォト俳句コンテスト

新型コロナワクチン接種の進捗
など区の取り組みを評価し、賛成

次世代あらかわ



次世代あらかわ会派の緊急要望書や次年度の予算編成に対する予算要望書の提出に対し、要望が施策に反映される事も多くあった。新型コロナワクチン接種の進捗をはじめ区の取り組みについて、高く評価している。

決算に関する特別委員会においては、災害に備えた委員会等のオンライン開催、高齢者や若者を狙った特殊詐欺対策、学校や公共施設における生理用ナプキンの設置、ワクチンに対する正しい情報の広報、HPVワクチンのキャッチアップ助成、9価ワクチンの公費接種化と公費接種期限が迫る方への周知、いじめAIの導入、待機児童対策としての西尾久保育園の園舎の活用、学童でのおやつ代金の徴収方法の整理、公園内での喫煙問題等

について議論を深め、前向きな答弁もいただいた。コロナ禍だからこそ、オンラインやSNSを十分活用し、区民が今なにを求めているかを知り、行政に役立てるよう希望し、賛成の討論とする。



HPVワクチンの
普及啓発ポスター

コロナ対策の強化と生活困窮者
への負担軽減、清掃職員の補充
を求め、反対

あらかわ元気クラブ



新型コロナウイルス感染症の対応について、保健所体制、医療体制の双方に強化の必要を感じる。PCR検査体制ではいち早いPCRセンターの設置は評価するところであるが、区独自の予算をつけ、希望者全員にいつでもPCR検査ができる体制が必要だと考える。

また、失業などによる生活困窮者にさらなる負担を伴うことになる保険料等に軽減のない予算に反対する。生活保護相談には、寄り添った対応や申請に対する啓発活動を求める。

最後に、清掃事業では雇上会社への委託化が進み、正規職員の採用がされていない。今後の震災や環境問題への取り組み、個別収集時の安否確認など、重要な役割を考え検証し、委託ではない正規職員の増員を求め、反対討論とする。



PCR検査の様子